

今がチャンス! これから楽しみ!

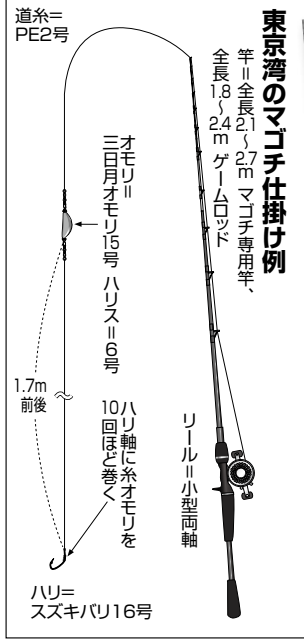
釣りどきレポート

Best Season Report

夏本番に向けて好期を迎える
釣り物が盛りだくさんの7月。
今回は青空と日射しが似合う2種目と
涼しい夜釣りを紹介します。



▲東京湾のマゴチは絶好釣期。トップが2ヶタに到達する好日も



東京湾のマゴチ仕掛け例
竿は全長2.7m マゴチ専用竿、全長1.8〜2.4m ゲームロッド、オモリは15号 ハリスは6号、ハリは16号、道糸はPE2号、リールは小型両軸

Tackle Guide
竿はマゴチ専用のほかゲームロッドも使いやすい。タナ合わせがしやすい両軸タイプのリールに、道糸PE2号が基本。エサはサイマキと呼ばれる小さなクルマエビ。最初の5匹は乗船料に含まれ、追加は1匹100円。
30分ほど走ったところで船がスローになり釣り場に到着。ほどなくして釣り開始の合図が出され一斉に仕掛けが投入される。
ミヨシに立ってお客さんの釣りの様子を見てみると、左舷の間で本日第一号のマゴチが顔を出す。
釣り上げたのは本日がマゴチ釣りデビュー戦の女性の方。カップルでの乗船だったようで、少し遅れて彼氏さんも小ぶりながらまずは一本ゲット。2人ともいきなりマゴチの強引を堪能して見事な初陣を飾った。

その後、間が空きながらも常連さんやルアーマンにヒックするが活性はちよっと低い様子。
たまにアタリがあってもエサ取りのフグのいたずらのようで、ハリにエビの頭だけが残って上がってくることもしばしば。
釣れるマゴチのサイズも40〜45センチ前後が中心。食べてはおいしいサイズだが、できればもう少し良型のイカつい画がほしいところ。
何度か流しを変えてみたものの状況は変わらない。そこで少し走って今度は富津沖へと移動となった。
こちらの釣り場も名の知れたポイントだが、肝心のマゴチはたまに顔を見せる程度。条件としては悪くないはずなのだが……。
昼過ぎに潮止まりを迎えた



▲当日は40センチ級が多かった

のを機に船長は神奈川県側に戻ることを決断。
場所変えが奏功
戻った釣りは東扇島一帯。好ポイントが点在する同宿の庭先とも言える場所だ。
到着してすぐに釣り開始の合図が出る。水深はとも浅く10メートルを切っており、この水深だと掛かってから取り込むまでがアタリという間。ただアタリから食い込むまでに多少の間があるため、合わせの構えになった方の側に張り付きシャッターチャンス待たせよう。
暑さよりもアタリのなさに痺れっぱなしだった常連さんにもわかに動きが活発になってきて、頻りにタナを取り直している。
そして左舷トモ2番の方が大きく竿を曲げファイト開始。
取り込まれたのは待ちこがれた58センチの大型だ。
これが呼び水となったのか、船中でアタリが頻りに訪れるようになった。午前中沈黙していた常連さんもここぞとばかりに連釣する。
サイズは40〜45センチ前後の中型メインだが、時折50センチ超えも釣れてきて船上は俄然にぎやかになってきた。
マゴチ釣りでは入れ食いといっても過言ではない食いつぶりで、タモを持ってアシストする船長も右に左にと大忙し。午前中の静けさはなんだったのだろうか?
ニュージブランド出身の女性にも待望のアタリ。しっかりと食い込ませてからガッチリ合わせる。
海面に出たところで45センチクラスをブッコ抜き、ベテランも驚く豪快さを見せる。

船宿information
東京湾奥鶴見
新明丸
☎090-4600-1225
(詳細は巻末の情報欄参照)
▶料金=マゴチ乗合一人 9500円 (エビエサ5匹付き)、女性・子供割引あり
▶備考=出発7時半。貸し竿、仕掛け常備。駐車場あり。別船はマダコ、フクヘ



新明 慶樹船長

写真が本に載った母国にいるママに自慢するんだとうれしそう。
その後も流し変えのたびにマゴチは顔を見せる好調さだったが、午後3時を迎え沖揚がりとなった。
残念ながらオデコの方が2〜3名いたようだが、36〜58センチを2名の方がトップ6本。午前中苦戦したベテランさんも午後の好機に数をのばし平均3〜5本は釣っていた。第一号を釣った女性も終わりに際し1本追加し、ゲストにマダコまで釣り上げていた。
照りつける陽差しのもと浅場で盛り上がる夏は始まったばかり、マゴチの強引で暑さを吹き飛ばそう。

東京湾奥鶴見発! 川崎沖
早くも照りゴチシーズン到来!?!
スリリングな引きにしびれる

知得! Tips and Tricks
マゴチのコツ
タナ合わせはオモリを1メートル程度持ち上げるのが基本。エビが海底を歩いているようにイメージするとよい。ちよくちよく水深が変わるのでこまめに底タチを取り直すことも大事。
エサ付けはコツがあるので初めての方や不安な方は船長に教えてもらうのが得策。
早く着いたにもかかわらず、大半のお客さんがすでに乗船しており道具の準備に余念がない。
19名の予約者がそろったところでエサのサイマキが配られ、定刻の7時半に河岸払いとなった。
鶴見川を下り海に出たところで船はいったん停止。ここで海水をくんでサイマキ(小さなクルマエビ)を大きなバケツに移し替えるのが、同宿のマゴチ船の一つの手順となっていた。
エサは生きていることがとにかく大事。エサのサイマキをていねいに扱うことがマゴチの必釣法の一つと言える。
夏場はとくにこまめな海水の交換も重要。エアポンプを持参している方が多いのもうなずける。
準備が整ったところで新明慶樹船長から、「大貫方面に走ります」とアナウンス。まずは千葉県側から攻めていくようだ。



▲合わせが決まった後のヤトリは焦らず慎重に